

the ISEE Workshop on Urban "Water-Food-Energy" nexus, and presented my work at the 40th ISEE/CICR colloquium on arctic hydroclimatic regimes and changes in a warming climate. In mid-November, I participated in the ISOP and Japan Permafrost Association annual meeting at the National Institute of Polar Research (NIPR), and gave a review talk

on water and chemical flux from large rivers in permafrost regions of Canada. I also attended the weekly seminar of the Laboratory of Hydroclimatology at ISEE. I enjoyed the meetings and discussions with colleagues both at ISEE and from other groups in Japan. In mid-November, I traveled to Takayama via JR train and I was very happy to tour the old town with

fascinating history.

Finally, I want to say thanks all at ISEE to host me and I will miss this group at the Nagoya University. I do hope to visit this wonderful city and university in the future. I am also ready and looking forward to meeting and hosting some Japanese visitors in Victoria Canada.

国際スクール開催報告



中国浙江海洋大学学生を対象とした衛星海洋学に関する トレーニングコースを開催

陸域海洋圏生態研究部 教授 石坂 丞二

8月2日から10日まで、中国浙江海洋大学から学部生14名・大学院生14名・教員3名が宇宙地球環境研究所を訪れ、衛星海洋学に関するトレーニングコースを受講しました。これは2014年に環境学研究科で学位を取得し、現在浙江海洋大学の講師Xu Yongjiu博士が企画したもの

です。本研究所陸域海洋圏生態研究部の石坂丞二教授、相木秀則准教授、富田裕之特任助教などが講師を務め、物理海洋学、生物海洋学、衛星海洋学の授業および、船舶・モデル・衛星のデータ解析の実習を行い、最後にグループ研究の結果を発表しました。



「世界中のどこかで空を見上げている人達の世界を限りなく広げ、そんな世界を限りなく身近なものにしたい」、これが約12年前、その後入社することになる会社のエントリーシートに書いた志望動機でした。現在、私は航空会社の整備部門に所属し、ボーイング787型機におけるエンジン整備契約の履行管理を担当しています。非常にやりがいのある仕事で、航空運送事業におけるエンジン整備の知見はもちろんのこと、エンジンメーカーが展開するビジネスモデルの理解や、ファイナンス・アカウントティングの知識が求められ、確実な契約履行のために日々奮闘しております。

私の学生時代は、すでにご勇退された小島先生をはじめ、徳丸先生、藤木先生のご指導のもと、太陽風の消失イベントについて研究をしていました。非常にアットホームな研究室で、教員と学生の距離が近く、毎日歓談

の場があり、日常のたわいもない話に花を咲かせていたのを覚えています。研究のための一要員ではなく、学問と向き合う一人の人間としてご指導頂き、非常に恵まれた環境で2年間を過ごすことができました。

振り返ってみると、当時の研究所に集った研究者や学生は様々なバックグラウンドを持った人達ばかりだったので、日々、多様な価値観に触れることができました。今考えると、こういった環境での経験が新しい価値観に対する興味を強くし、宇宙物理学を専攻する動機となった「物理的に非常に遠くで起きていであろう現象を、数字を使って目の前にある紙の上で表現できる学問」への好奇心と相まって、上で書いた志望動機を持つに至ったのかもしれない。

入社後は整備士としてエンジン整備に6年間従事し、その後の5年間で、エンジンの生産管理や部品計画を担当してきました。2017年には当時担当していたボーイング767型機という機種で、エンジンメーカーとエンジン部品に関する整備契約を締結し、この出来

事は新聞にも掲載されました(写真は契約交渉の妥結直後にメーカー側の担当者と撮ったものです、本人左から2番目)。学問の世界にしかない美しさはそこにはありませんが、ビジネスの世界にしかない、人が介在することで生まれる難しさや楽しさを強く感じたことを今でも覚えています。今後も志を高く保ち、世界中のどこかで空を見上げている人達の未来に貢献できるよう、日々、尽力して参ります。末筆ながら、皆様のご活躍と、貴校の益々のご発展をお祈り申し上げます。



村上 太一

平成19年3月 理学研究科博士前期課程修了
(太陽地球環境研究所 太陽圏プラズマ物理学研究室 所属)
勤務先: 全日本空輸株式会社
所属: 整備センター 部品事業室 部品計画部 契約管理チーム